

3-4 各部の納まり詳細図

鉄骨下地

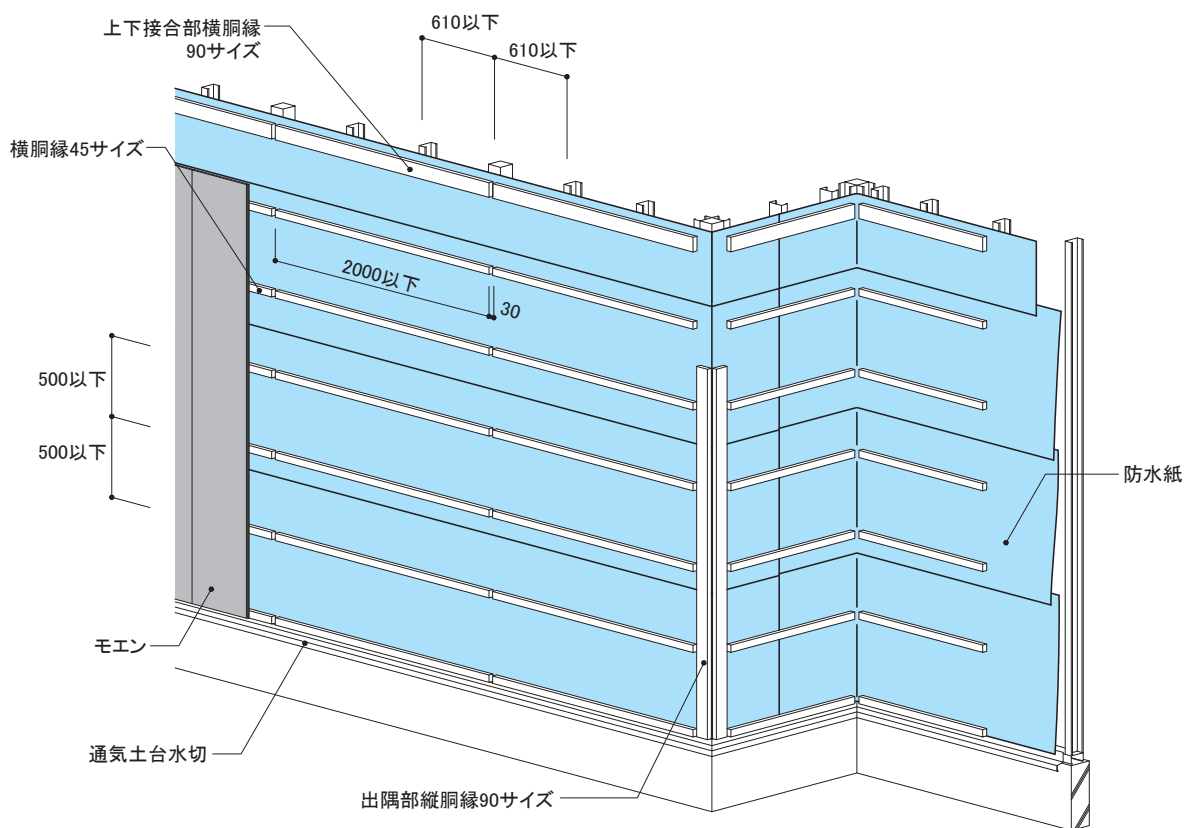
縦張り

釘打ち施工
(木胴縁下地)

1) 基本構成図・下地組図

1. 5尺×10尺、3尺×10尺

- 通気土台水切は胴縁組みを行う前に取り付け、防水紙を上にかぶせて施工します。
 - C形鋼は75×45～100×50mm、厚み1.6～2.3mmを610mm以下の間隔で縦に組みます。
 - C形鋼と直交させるように500mm以下の間隔で厚み33mm以上の木胴縁を入れ、ビスでC形鋼に留め付けます。(胴縁留付ビス:ステンレススネジφ5mm以上×60mm以上)
 - 下地組みは、必ず通気ができるように2000mm以下の間隔で30mm程度の隙間を設けます。
 - 横胴縁と開口部まわりの胴縁は30mm程度の隙間を設け、通気する構造とします。
 - 出隅部、入隅部、開口部まわりなどは角パイプやC形鋼ダブルとするなど、木胴縁が留め付けられるようにします。
 - C形鋼の下地組みにビスでモエンを直張りする施工は、絶対に行わないでください。
 - モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口が見える部分に専用補修液を、それ以外の部分はモエンシーラーを再度塗布します。
- ※準耐火構造および防火構造で、鉛直荷重を負担する構造部材のC形鋼の厚みは、2.3mmとします。



小口処理 モエン縦張り下端小口面および切断小口面は、モエンシーラーを十分塗布し乾燥後、切断小口面が見える部分については専用補修液を、それ以外の部分はモエンシーラーを塗布します。

釘頭 釘頭の補修は目立つ箇所のみとし、専用補修液を使用し、必要最小限の範囲に塗布します。